

らいい ゆう～ Like You



子育て中の現役ママとお話ししてみたら…

7月に、毎月氏家公民館で行われている子育てシェア会の中で、男女共同参画推進委員と子育て中のママとの意見交換・交流の場として「ママとの懇談会」を行いました。

特に県外からの移住・転勤も多いさくら市。単身赴任や共働き世帯が増え、働き方も多様化する現代の子育て中のママの本音に迫りました。



今回訪問したサークルは…

子育てシェア会(母も子どもも楽しむ会Junchikari(じゅんちかり))

同じ産院で出産した縁をきっかけに、市内で母も子どもも楽しめる会を提供し、主に氏家公民館で、子育てシェア会として『共同子育て会』を開催。

季節毎にpicnicや流しそうめんなど、親子で楽しめる企画や、親子で参加できる勉強会なども行っている。



Junchikari共同代表
磯部 里恵さん

懇談会
当日

参加された方はいずれも1歳未満～5歳の子どもを育てているママ。もともと市内に住んでいた方は**お**らず、市外、または県外**か**ら来た方ばかり。話を聞いていると、現在の子育てに対する不安な気持ちも見えてきました。

🌸 2歳の子どもを育てている専業主婦



「他県からの移住者の場合は頼る人がいなくて孤独を感じている人が多いのが現実。子どものためにも地域に積極的に出ていく必要性を感じてはいるが、果たしてどこに行けばよいのか?地域の支援センターに行き、「初めまして。」から始まり、年齢・職種・考え方が違う方と理解し合うまでには、それなりに時間がかかる。よく、幼稚園や保育園に行くと知り合いも増えると聞くと、それまでの期間は母親としても一人の女性としても大切な時間なのに、ただ自分一人が我慢すればよいのか…と悩み、子育ての孤独や経済的事情から働く事を選ぶ方もいる。」と悲しい現実も見えました。

🌸 2児の母で育休中の女性

長男の育休後はテレワークで働いた経験も**あ**る女性からは、「子どもが6ヶ月になると復職したいと考えていたが、0歳児の場合は、保育所の定員が少なく待機児童になってしまった。子どもが1歳になったらフルタイムで復職予定。」

早く復職したい理由については、「仕事で伸び盛りの年齢であり、同期の男性が出世した等の話を聞くと負けたくないと思うのでバリバリと働きたいから。」との事でした。



🌸 元保育士の女性



「妊娠・出産を機に仕事を辞めました。保育所は、人手不足でつわりを原因に1日休むだけでも大きな痛手で迷惑をかけていると感じたからです。いつかは復職したいと考えているが、今の保育所の状況や保育士の責任の重**さ**を考えると、子育てとの両立は簡単ではない。」

また、他の元幼稚園教諭からも「自分の家族を犠牲にしないと務まる仕事ではない。」との意見もありました。

※個人の意見として掲載しています。



“子どもは社会全体で見守り育てていくもの”と言われてはいますが、まだまだ現実的には母親1人で担う部分が多い子育て。SOSを出す暇さえない母親達が安らげる場所づくりを目指しています。

また、目の前の問題を自分達で考え、改善し子ども達が成長していく地域が少しでもよくなるよう、動いていきたいと思っています。



福田委員長

最近、現代社会がどこかで何かを間違ってしまったてはいないかと不安を覚えることが多い。

他を思いやる心や譲り合うほん
の少しの心のゆとりがなくなっているように感じる。

「個」を確立することをはき違えてはいないだろうか。皆と仲良くすることは、皆が自分と同じであることではなく、ひとりひとりの違いを認め合うことだと思う。

男女共同参画は、より生きやすい社会を目指しているが、人として大切なことは変わらない。

澤村委員



ママとの懇談会に参加出来ず、当日の参加資料を読ませて頂き、とても感動した。仲間とのつながりをいつまでも大切に進むことを願う。

Junchikariの皆さん、これからもさくら市を盛り上げて、より良かれものが住みやすい、誰もが自慢のさくら市を目指してください。

子育て



岡本委員



「ただいまー」「ママ、お帰り」
「お世話になりました。」

毎日仕事を終わると第三子を保育園に迎えに行き、家に帰ると義母と二人の子どもが待っています。一日の様子を聞き、夕食の準備を始めます。

休みの日は家の周りや公園などで一緒に遊ぶのが何よりの楽しみでした。夫も仕事から帰ると、子どもたちの面倒を見てくれ、家事も一緒にしてくれました。家族の理解と協力のおかげで、何とか仕事と育児・家事の両立ができたように思い、感謝しています。

渡邊委員



産院にて雪が舞う夜だった。子どもが生まれた時の感動は今も覚えている。

父親にして頂き、妻と子どもに感謝した。この子を育てるために仕事を頑張ろうと思った。

どこにいても、私が両手を大きく広げて胸を開くと、子どもは飛び込んでくる。笑顔でいれば子どもも笑顔になる。私が病気で入院した時、学校から家庭で何かありましたかと先生から連絡の電話が入ったと言う。子どもの明るさが消え、私のことを心配してのことだつた、と妻が言う。その時妻には笑顔はなく私の心配ばかりをしていたと言う。お母さんに心配ごとがあると子どもから笑顔がなくなる、つらい経験でした。人を愛し、愛される人になるよう育てたいものです。

大森委員

いつごろからだろうか、おんぶ姿を見かけなくなったのは。ひも一本で両手が空く。

こんな便利なものはないと思う。

わたしは子どもをおんぶするのが今でも大好きだ。背中にぴったりとくっつく感触、温かさ、肩越しに顔を見たり、話しかけたり、子守唄を歌いながら散歩したり、台所に立ったり。

今の時代おんぶは必要ではなくなったのだろうか？車で出かけ、ベビーカーで歩く。抱っこする姿はあってもおんぶしている姿はない。少なくとも外では。「おんぶひも」は形を変え、残念ながら名前も変え「抱っこひも」になっている気がする。抱っこはやっぱり両腕でぎゅっとしたい。おんぶはおんぶ、背中がいい。



上野委員



最近のお父さんは、子育てに協力的だと思う。土曜、日曜や仕事が休みの平日に、子どもを連れて児童館で過ごすお父さんがたくさんいる。

泣きわめく子をなだめたり、おままごとをして遊んだり、一緒に手遊びタイムに参加したり…

子どもと同じ時間を共有できるのは、ほんのわずかな期間だけです。イヤイヤ期で大変なときも、関わりが深ければ深いほどどれも素敵な思い出となって、自分自身のエネルギーを満たしてくれるものになる。

お母さんだけに任せていたらもったいない!♥
現在、未来のお父さん、子育てで充電、しませんか？

第4次さくら市男女共同参画計画 (平成31年度～35年度)策定準備中!

平成31年度から平成35年度までの5か年計画である第4次さくら市男女共同参画計画を男女共同参画推進委員会で策定しています。



こんにちは。第4次男女共同参画計画で、皆さんと一緒に男女共同参画を勉強させていただきます“さんかくん”と申します。

みなさん、今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

新しい第4次男女共同参画計画は、「知る」「働く」「家庭」「地域」「健康」「DV」「防災」という7つのテーマに沿って、わかりやすい計画を目指していることが大きな特徴です。

また、最新トピックスや男女共同参画委員さんの意見、僕のコラム(!?)など、盛りだくさんの内容となる予定です。ご家族みなさんで読んでください。お楽しみに!



さくら市男女共同参画推進委員を募集しています



私たちと一緒に市の男女共同参画に向けた活動をおこなってみませんか?

イベントの企画や情報紙の発行など、誰もが住みやすく明るいさくら市を目指して楽しみながら活動していきましょう!老若男女問いません。ぜひ、あなたの力を活かしてください!

問 総合政策課 (☎681-1113)

☆編集後記☆

先日、妻の高校時代の恩師から丁寧に包装された荷物が届いた。美しい熊谷草の額入りの写真と戊辰戦争から150年を迎えた会津戦争の婦女子たち、会津に燃えた女たち(会津若松市政90周年記念特別企画)のコピーされた資料が届けられた。その中に「鹿鳴館の華大山婦人」山川捨松とあった。何年か前に捨松の墓石を見学したことがあったが、なぜ捨松なのか疑問に思っていた。山川咲子が10年間のアメリカ留学に出す時はまだ11才、母の唐衣が出発直前に「捨松」と改名させた、とある。「捨てたつもりで待つ」と言う母の深い愛を感じる。

この資料で山川健次郎(物理学者・東京大学総長)は捨松の兄だったことを知り、知らなかったことを知る楽しさ、大切さを感じる時間でした。 Y.W.

◆編集：さくら市男女共同参画推進委員会 ◆発行：さくら市総合政策部総合政策課

〒329-1392さくら市氏家2771番地

TEL：028-681-1113

FAX：028-682-0360

E-mail：sogoseisaku@city.tochigi-sakura.lg.jp